

令和3年度 学校評価シート

学校名：専修学校東京国際ビジネスカレッジ福岡校

目指す学校像	生徒一人ひとりの可能性をみつけ、才能を開花させる学校。
育てたい生徒像	<ol style="list-style-type: none"> 特化型専攻で「好き」や「得意」を追求する生徒。 自ら考え、自ら学ぶ力を身につけ、何事にも主体的に行動できる生徒。 夢を見つけ、それに挑戦し、達成を目指す生徒。

本年度の重点目標	1 特色重視の特化型教育で生徒一人ひとりの才能を開花させる
	2 教科横断型の探究授業、企業・地域連携授業による非認知能力の向上
	3 大学進学率の向上（目標：60.0%）と専攻の教育内容にマッチした進学先の開拓

達成度	A	十分に達成した（80%以上）
	B	概ね達成した（60%以上）
	C	あまり十分でない（40%以上）
	D	不十分である（40%未満）

※ 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目（年度達成目標）を設定する
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。

※ 評価項目に対応した具体的方策と方策の評価指標を設定する。
 ※ 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を受ける。

自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価		
年 度 目 標					年 度 評 価（令和4年4月1日現在）		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善方策
1	現状> 特化型教育として5専攻体制になって初年度。カリキュラムの確立と実績作りが必要。また、専門授業の実施にあたり、施設・設備といったハード面のさらなる整備も必要である。中学校時代に不登校を経験した生徒も多く在籍し、基礎学力の定着が必要である。	実施している授業の定期的なチェックと指導内容の見直し	・管理職による授業見学と定期的な授業アンケートの実施	・定期的な実施ができたか。 ・適切なフィードバックができたか。	・授業アンケートは実施され、教職員にフィードバックをすることができた。 ・管理職による授業見学は、スポット的なものになり、すべての職員にバランスよくフィードバックすることはできなかった。	C	・管理職による授業巡回の予定を立てる ・授業アンケートの計画的実施とフィードバックの時間の予定を立てる ・基礎学力のプログラムが全員終わるまで実施できる環境の整備 ・各専攻ごとに外部から評価される目標を設定し、その目標に向けて取り組める計画の遂行
	課題> ・専攻授業の指導内容の精査 ・生徒たちの学力や習熟度の把握 ・各専攻が目指すべき大会・資格・進学先の精査	個々の成長を可視化できる仕組みの構築	・基礎学力チェックテストの実施 ・外部コンテストへの参加	・基礎学力（中学校分野）の定着が図れたか。 ・外部コンテストにおいて、入賞することができたか。	・基礎学力の定着を図る予定を組み、その期間では取り組めた。しかし、期間内に終わらなかった生徒のサポートが弱かった。 ・高文連演劇部門全国優勝 / 高文連福岡地区大会入賞9作品	B	
		専門授業に実施にあたり必要な施設・設備の整備	・年初及び各学期ごとに専攻会議を実施。必要なハード面についてもヒアリング。	・規定通りに実施でき、且つ、必要は機材等の整備ができたか。	・デジタル制作専攻・eスポーツ専攻のPCなどを整備。予定されていた教育活動はすべて行うことができる環境は整備できた。	A	
2	現状> 探究学習として、机上のアイデアで終わらず、実際のモノ（イベント）を創り出す学びができつつあり、外部との連携により学内に留まらない学びへ発展させていく。成果発表の場として、校内・校外それぞれのコンテストや発表会に参加し、成果を出していく。また、外部の方と接して行く中で、ビジネスマナーを身につけ、社会人としての視点から自分を律する生徒を育てていく必要がある。	地域・企業・大学等の外部関係機関との連携強化	・地域・企業・大学等の講演会や、連携講座の開講やイベントの共催	・外部の方の講演会やイベント等が開催できたか。 ・参加者の満足度	・商品開発を目指し、飲食店と連携しようとしたが、結果的にはうまく連携して商品を開発することはできなかった。 ・プログラミング教室主催者の講演会実施 ・芸術系大学の体験授業の実施	C	・外部コンテストとリンクした教育活動の計画と実施 ・オンラインを活用し、対面では実現できない教育機会の創出を常に考える ・探究学習を学校全体でどのように実現するのか、計画の練り直し
	課題> ・企業連携（連携企業の選定） ・実施内容の外部発信 ・成果発表の場の設定と参加	オンラインを活用した新しい繋がり	・オンラインによる起業家やクリエイター等の講義や、連携校との合同イベントの開催	・オンラインでの講義・講演会等が開催できたか。 ・参加者の満足度	・eスポーツ専攻では、プロチームやプロ選手の講座をオンラインで受講できる環境を整え、講義を展開した。 ・オンラインを活用した文化祭の実施	A	
		学習の成果を発表できる機会の設定と、外部コンテストの選定	・校内成果発表会の開催 ・外部コンテストへの参加	・各取り組みの中で、成果を発表する場を設けられたか。 ・コンテストや大会において、成果を上げることができたか。	・連携先の広域通信制高等学校のプレゼンテーション大会にて、1学年1位の生徒を輩出。 ・2学年の探究学習では、外部のコンテストへエントリーしたが、入賞などの成果を上げることができなかった。	B	
3	現状> 近年、大学進学率は毎年10%程度上昇傾向にあり、昨年度から福岡県の平均を上回るようになってきている。様々な入試方法を研究し、総合型選抜や推薦入試で入試を突破できる体制を作る必要がある。また、専攻の教育にマッチした指定校の開拓や、経済的問題のある生徒の進路保障のための指定校スカラシップの開拓をしていく必要がある。	適切な進路選択の機会を提供	・進路ガイダンスの実施 ・外部進学説明会への参加	・進路ガイダンス及び外部進学説明会への参加が適切に実施されたか	・進路ガイダンスは各学年でほぼ予定通り実施できた。外部説明会も、適切に案内することができた。 ・年度の予定は立っているが、3年間の予定がしっかりと確立していない部分がある。	B	・3年間の進路指導スケジュールを再考する ・指定校推薦獲得のための大学訪問のスケジュールを設定 ・スカラシップ制度を打診するための提案ができる資料を作成
	課題> ・1年次からの進路指導の徹底 ・多様な入試制度に対応した対策の徹底 ・専攻教育にマッチした指定校や、経済的問題のある生徒の進路保障のための指定校スカラシップの開拓	定期的な進路希望の把握	・進路希望調査（4月・7月・10月・2月） ・二者・三者面談（5月・3月）	・生徒の進路希望の状況をタイムリーに把握できているか	・進路希望調査は、予定通り実施することができ、把握することができた。	A	
		新規指定校の開拓	・専攻教育にマッチした指定校の開拓 ・経済的問題のある生徒の進路保障のための指定校スカラシップの開拓	・新規指定校推薦獲得のための大学訪問ができたか。 ・指定校獲得のための資料を準備することができたか。	・新規指定校推薦獲得のための大学訪問がほとんど実施できず、郵送等での依頼となってしまった。 ・指定校推薦獲得のための資料は準備できていた。	C	

学校関係者評価	実施日 令和 5年 3月 24日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<p>・計画的な授業アンケートの実施により、管理職による授業見学を定期的な計画通りに行い、各教員に確実なフィードバックができる時間を設けるように年間計画も工夫した方がよい。また、授業見学における「観点」を明確にすること。</p> <p>・基礎学力の補講範囲全体を網羅できるようになっているので、ここに留まることなく、学力試験や模試で成果が見えるレベルを目標に継続した学習指導をすること。</p> <p>・授業アンケートは担当教員に対する評価になる項目だけでなく、個々の生徒と共有する目標（検定試験等）が達成出来ているかを測れるように改善した方がよいと考える。</p> <p>・企業や地域との連携を強め、生徒の非認知能力を向上させる取り組みは、これからますます重要視されると認識しており、地域商店街（平尾商工連合会）の飲食店や事業所と協同で商品サービスの開発に努め、より一層の連携強化に取り組まいたい。</p> <p>・民間（企業大学）講師の導入や卒業生、関連する学校の教職員相互交流をはかり、情報の幅を広げていくことが大事である。</p> <p>・学習成果をアウトプットする機会の創出をこれまで以上に力を入れ、生徒一人ひとりが学習成果を実感できるような更なる取り組みを期待したい。</p> <p>・進路ガイダンスや進路希望調査が適切、且つ丁寧に実施されていることから、生徒の進学に対する意欲向上とモチベーションを高く継続でき、4年制大学進学率60%以上という結果に結びついたらと思われる。これは、今後も継続していくことを望む。</p> <p>・進路選択のミスマッチがないように各年次において身につけるべき力を明示し、1年次から卒業年次までのキャリア教育の流れを可視化するとよい。</p> <p>・生徒自身が望む進路を歩めるよう、幅広い進路先の開拓に向けての取り組みを一層強化するとともに、経済状況が厳しい家庭にある生徒を支えるための取り組みにも引き続き注力されたい。</p>